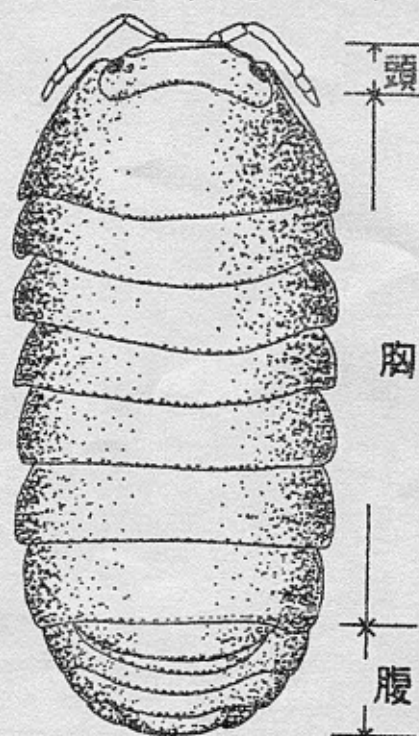


オカダンゴムシ

春になるとたくさんの虫がでてきますが、オカダンゴムシもその一つです。さわるとまるくなる、大きさ1センチくらいの虫で、マメムシとかマルムシとかよばれているなじみ深い虫です。

では、オカダンゴムシは何のなかまでしょうか。こん虫でしょうか。クモでしょうか。ムカデのなかまでしょうか。それともエビ・カニに近いなかまでしょうか。まず体つきを、調べてみることにしましょう。オカダンゴムシの体は頭・胸・腹と大きく、3つにわかれていています。クモやムカデは胸と腹の区別がなく、これらのなかまでないことがわかります。次に足の数とアンテナ(触角)の数を調べてみましょう。足は14本、アンテナは2本あるようにみえますが、アンテナはとても短い2本をふくめ4本あります。こん虫は足が6本、アンテナは2本で、こん虫のなかまでもないことがわかります。じつは、オカダンゴムシは甲かく類(かいりゅう)といって、エビやカニのなかまなのです。



エビやカニのアンテナは4本あるので コシビロダンゴムシ オカダンゴムシ

	体つき	アンテナ	足	主なすみか
オカダンゴムシ	頭、胸、腹	4(うち2本は長い)	4(じつは16)	陸
クモ	頭、胸	なし	8	陸(一部水)
ムカデ	頭、胸	2	たくさん	陸
こん虫	頭、胸、腹	2	6	陸、水
エビ・カニ	頭、胸、腹	4	10(じつは16)	おもに海(一部水、陸)

すが足の数は、エビもカニも10本です。しかし、エビ・カニもオカダンゴムシも本当の足の数は16本なのです。オカダンゴムシの足の最初の2本は、口のところにあり、歯のようなはたらきをしており、のこりの14本が、歩くための足になっています。また、エビやカニは、最初の6本が歯のようなはたらきをし、のこりの10本が歩くための足もしくは、ものをつかまえるハサミ足となっています。

ところで、オカダンゴムシは、庭や公園、河原、ときには家やビルディングの中にもいますが、森の中にはいません。森の中にはよく似ていますが、しっぽが後の方に広がっているコシビロダンゴムシがいます。オカダンゴムシは「まちの虫」なのです。また、オカダンゴムシは江戸時代までは日本の中でみつかった記録がないので、ここ百年間ぐらいの間に、ヨーロッパあたりから入ってきた虫と考えられています。もともとは外国の虫なのです。



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山 (0764) 91-2123(代表)

昭和60年4月1日発行